

キチョウの仲間は、ミナミキチョウが分類区別されて以降、日本本土産はすべてキタキチョウと呼ばれるようになり、沖縄以南にはミナミキチョウ、台湾キチョウ、そしてキタキチョウが混生するのだが、初めて沖縄、石垣島を訪れた際には、キチョウについて何も意識をしていなかったことが、1993年の沖縄・八重山蝶紀行への記載で明らか。

Sep. 4, 1993：石垣島バナナ公園

公園裏手の道沿いにはスジグロカバマダラとリュウキュウアサギマダラが多く、ときおりベニモンアゲハがパタパタと抑揚のないはばたきで道を横切って山手の林内に消えてゆく。ツマベニチョウをひとまわり小さくした位の、それでもモンシロチョウなどよりはるかに大きいシロチョウの仲間が敏捷に飛び交う。ウスキシロチョウのようだ。ウラナミシロチョウの不完全体も見られる。キチョウの数もやたらと多い（この時点ではこれらのほとんどが台湾キチョウであることに気づいていない）。

その後、ミナミキチョウの同定に必要な、翅の縁取り部の鱗粉色に注目するようになるのだが、それでも捕獲してじっくり観察をしないと分からない、実にやっかいなチョウとなっている。2012年以降には努めて自然状態でのキチョウの仲間の撮影記録をとろうとしているのに、結局は台湾キチョウの訪花シーンを記録できただけで、あとは標本とした中から同定が確実なものを示しておくよりほかはない。



キタキチョウの翅表黒鱗粉が、春から秋にかけて季節変異を示すことに興味をもって観察を続けているが、八重山諸島では少なくとも高温期型と低温期型の変異があるようで、2015年2月の記録は、キタキチョウでいえば夏から秋へと移行する際にみられるタイプに似ている。なお、台湾キチョウとキタキチョウは前翅の黒鱗粉が内部へと突出する部分の切れ込み度合が台湾キチョウでより深いことで判別できる。ミナミキチョウは翅の縁毛に黒と黄色が混じるというのが判別点となる。



Oct. 24, 2009 台湾キチョウ♂ 石垣島



Oct. 24, 2009 台湾キチョウ♀ 石垣島



Nov. 4, 2007 ミナミキチョウ 西表島



Sep. 16, 2009 キタキチョウ♂ 加古川市



Oct. 13, 2008 キタキチョウ 加古川市